

2016年3月2日

富士重工業 AWD車の累計生産台数 1,500万台を達成

～生産開始から44年目での達成～

富士重工業は、このたびAWD (All Wheel Drive: 全輪駆動) 車の累計生産台数1,500万台^{*1}を達成しました。1972年9月に発売した「スバル レオーネ 4WD エステートバン」に初めて搭載してから、44年目での達成となります。

1972年にAWD車の生産を開始して以来、スバルは「より安全に、より愉しく」を主眼に、一貫してクルマ本来の基本性能を磨き続けており、スバル車の2015年世界販売台数に占めるAWD車の比率は98%^{*2}となっております。また、その全てが^{*2}水平対向エンジンとの組み合わせによる、スバル独自のシンメトリカルAWD方式となっております。

シンメトリカルAWDは、AWDが持つ優れた走行安定性や走破性に加え、縦置きに配置した水平対向エンジンを核とした左右対称のパワートレインがもたらす重量バランスの良さと相乗効果によって、安定した高速走行と俊敏なコーナリングを実現し、スバルの安全思想と走る愉しさを支える中核の技術となっております。

富士重工業は、これからもブランドステートメント“Confidence in Motion”を通じ、スバルならではの魅力ある「確かなクルマづくり」を貫き、世界中のお客様へ「安心と愉しさ」を提供してまいります。

*1: シンメトリカルAWD方式以外のAWDを含む

*2: 他社からのOEM供給車を除く



シンメトリカル AWD



スバル レオーネ 4WD エステートバン